



進学先大学

東北大学

教育学部

教育科学科

別当屋敷 和 / Nagomi Bettohyashiki

座右の銘

遠回りこそが一番の近道

出身校

市立札幌開成中等教育学校

IB経験

MYP/DP

略歴

2024年11月市立札幌開成中等教育学校にてIBDP修了

2025年4月から東北大学教育学部教育科学科 にAOⅡ期（IBスコア不使用※）で進学

※2025年度入試から国際バカロレア修了学生、修了見込み学生はIBスコア提出が求められています。

進学先の大学・学部・専攻を 選んだ理由

「教育」に関わる場や人を複眼的、多層的に捉えたかったからです。東北大学教育学部では教育に対して政治学や社会学、心理学はもちろん、工学や人類学、哲学など多岐に渡る分野と対象についてアプローチと研究ができます。私にはとても魅力的な環境でした。

志望校合格に向けて どのように努力したか

AOⅡ期とIB試験、不手際で未完だったVisual Artの課題を抱えていたので、スケジュール管理が肝でした。受験を決めてすぐに過去問と学部の特徴を分析し、出題意図に適した教材と資料を選びました。特に新聞や新書などを沢山読み、小論文問題や面接でどんな話題にも対応できるようにしました。

大学で学んでいること

1年生の間は専門分野に分かれないため、広い分野の授業を受講できます。キャリアの一環として高校の社会科教員免許取得を目指しているので、まずそこに必要な授業を履修しています。それに加え、TOKで知の領域ごとの世界に対する異なる視線の向け方とそこから生じる異なる知の面白さを実感したため、積極的に異なる分野の授業を受けています。例えば文学部生向けのラテン語や理学部生、医学部生向けの科学英語という授業を選択しました。三位一体論の原文や放射線同位体研究装置など、教育学内のみであれば関わらないであろう知識に触れられ、とても刺激的です。

IBで学んだスキルが大学の学びで 生かされた場面

IBでの探究活動を通じて、研究技術と停滞への向き合い方を学びました。課題設定から計画・修正を繰り返す中で、情報収集や議論構成の力を磨くと同時に、粘りすぎや方向転換の遅れによる失敗も経験しました。こうした試行錯誤は大学でも活きており、行き詰まった際に原因を分析し、粘るべきか視点を変えるべきかを判断する冷静さを培えたと感じます。判断が常に正しいわけではありませんが、失敗から目をそらさず次に生かそうとする姿勢も、IBでの経験から培うことができました。

大学生活で最も発揮している 「IBの学習者像」とは？

「心を開く人」：はじめてから自分の分野を限定せず、どんな発見や情報、関わりも大切にし、積極的に取り組もうとする姿勢を持つことで、新たな研究テーマやアプローチ方法を思いついたり、人脈を築くことに繋がっています。

今描いている 今後のキャリア

将来は研究者として、生まれた時から傍にある人間活動である「教育」を問い、勉強や学びが学校や教科書を超えて広く存在する取り組みだと再定義していきたいです。そのためにこれからも研究の方法論や研究史について学修を深めたいと思います。